

茨城県地域花火文化振興協議会 設立趣意書

茨城県は、優れた景観を持つ海岸線や河川、湖沼、万葉集に歌われた筑波山を始めとする多くの山々、そして広大な平野など、豊かな自然に恵まれ、常陸国風土記に「土地広く、土が肥え、海山の産物もよくとれ、人びと豊かに暮らし、常世の国のようだ」と記されているように、豊潤の大地には古来、多くの人々が暮らしてきました。

この恵まれた自然環境と穏やかな気候風土を背景として、茨城県では古くから文化活動が活発で、県内各地において貴重な文化財や地域に根ざした伝統文化が、今日まで脈々と受け継がれています。

こうした風土の中に花火文化もまた深く根付き、つくばみらい市には、400年以上前から民俗芸能として仕掛け花火「綱火」が伝承されており、昭和51年には国の重要無形民俗文化財に指定されています。

打揚げ花火も盛んで、とりわけ大正14年に始まった「土浦全国花火競技大会」は、現在では大会での受賞が花火師にとって最高の栄誉とされています。また、明治39年に千波湖で行われた沼開き花火を起源とし、現存する大会では県内最古である「水戸偕楽園花火大会」など、そのほかにも県内各地で多彩な花火大会が毎年数多く開催されています。

花火の製造も活発に行われており、製造業者数は7者で都道府県別で全国第5位を数え、その技術力と表現力は全国トップレベルであり、「土浦全国花火競技大会」における最高賞である内閣総理大臣賞を創設以来、県内の花火業者が8割以上を受賞しています。その精巧さや芸術性の高さは世界的にも高く評価されており、長い歴史の中で培われた技術と作り手の思いが込められた花火は、県内外の花火大会において多くの人々に感動を届けています。

しかしながら、花火の文化的価値や技術体系は、国内において必ずしも十分に評価・可視化されているとは言い難い状況にあります。花火の製造技術は、全国有数の花火大県である茨城県にあっても、少数の職人によって守られているのが現状です。その伝統を絶やすことなく次世代へ確実に継承し、さらなる発展に繋げるためには、花火の文化としての価値を高めるとともに、花火師の地位向上を図る必要があります。

花火は、季節感や伝統を重んじる日本人の精神性に合致し深く根付いており、特に、その技術や芸術性が世界で最も精巧で華麗なものと評価されている打揚げ花火は、世界に誇るべき文化です。

私たちは、今後、茨城の花火にとどまらず、日本の花火としての歴史、魅力、技術、そして花火師一人ひとりの技能と功績を、国内外に向けて体系的かつ継続的に発信するとともに、国レベルで花火師の評価や顕彰に係る仕組みを整備することにより、花火の社会的評価を一層高めていく必要があると考えています。これにより、貴重な技術と精神を次世代へ確実に継承し、若手花火師の育成や、さらなる技術革新へと繋げることができます。

また、世界的に日本文化への関心が高まる中、花火文化は、訪日外国人旅行者の誘客や地域の魅力発信においても、大きな可能性を秘めています。花火大会や関連イベントを通じて、地域の歴史・自然・人々の営みと花火を結び付け、国内外から多くの方々に足を運んでいただくことで、地域活性化や持続的な発展に寄与するものと期待されます。

茨城県が世界に誇る花火文化の保護と振興に一丸となって取り組むため、私たちは、ここに「茨城県地域花火文化振興協議会」を設立します。

2026（令和8）年7月16日 茨城県知事 大井川 和彦

水戸市長 高橋 靖

土浦市長 安藤 真理子

日本煙火協会茨城地区会代表 金澤 克昌

公益財団法人いばらき文化振興財団理事長 大谷 美恵子

一般社団法人茨城県観光物産協会会長 大井川 和彦